

コンクリート目地切専用カッター

目 地 太 郎

MC-100型

GKタイプ

取扱説明書

NFS 日本フレキ産業株式会社

この度は弊社目地太郎MC－100型をお買い上げいただき、誠に有難うございます。

はじめに

- ・ この取扱説明書は目地太郎MC－100型の取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。ご使用前に安全で最良の状態でご使用いただくために、必ず熟読し正しくお取扱いただくようお願い申し上げます。
- ・ お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。
- ・ 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡してください。
- ・ 下記マークは安全上特に重要な項目ですので、必ずお守りください。

 **危険**

取扱いを誤った時、使用者等に死亡または重傷を負う危険が極めて大きいことを示す。

 **警告**

取扱いを誤った時、使用者等に死亡または重傷を負う危険が想定されることを示す。

 **注意**

取扱いを誤った時、使用者等が軽傷を負う可能性が想定される場合または物的損害のみ発生が想定されることを示す。

安全に作業をするために



警告

安全に作業をしていただくために、次の注意事項を守ってください。

- ・ 作業に適した服装を身につけ、ヘルメット、安全靴を必ず着用してください。
- ・ 燃料補給時には、必ずエンジンを停止させ、タバコの火等、火気を近づけないようにしてください。
- ・ トンネル内での作業時には、換気に十分気を付けましょう。
- ・ 夜間作業時には、機械の作業灯をつけ、必要に応じて照明施設を設けるなどして、十分明るくして作業をしましょう。
- ・ 作業前には、必ず始業点検を行い、不具合・故障箇所のある場合は、整備完了してから使用しましょう。
- ・ エンジン運転中は、絶対に回転部に手などを近づけないようにしましょう。
- ・ 機械から離れる場合は、いたずらなどで機械が動き出したりしないように、キーを抜きとるなど十分に注意しましょう。
- ・ 傾斜地に駐車するときは、必ず車止めをしましょう。
- ・ 運転中やエンジン停止直後に、ラジエーターキャップを外すと熱湯が噴き出てやけどをする場合がありますので、十分注意して下さい。
- ・ バッテリーの電解液は強い酸性で、人体に有害ですので皮膚などに付着しないようにしましょう。
- ・ 電気配線のたるみや断線は、ショートによる火災の危険がありますので、十分注意しましょう。
- ・ 道路上での作業は、歩行者などの安全確保のため立ち入り禁止の表示をし、必要に応じて誘導者を配置し、通行車両の整理をしましょう。
- ・ エンジンおよびダイヤモンドブレードについては、各々の取扱い説明書をよく読んで、正しくお使い下さい。
- ・ 室内では使用しないでください。

『主 要 諸 元』

1) 名 称	目地太郎
2) 型 式	MC-100
3) 最大切断深さ	100mm
4) 走行方式	無段変速前後進 自走・手動切替
5) 走行速度	0～425m/h (回送時0～1160m/h)
6) 切込深度調整	油圧式
7) 集塵装置	
a) ブロア	機械式
b) フィルター	円筒型フィルター
c) シェキング装置	手動回転式
d) ダストケース	35L
8) 搭載エンジン	
a) 名 称	クボタ WG752-G
b) 型 式	水冷3気筒4サイクル
c) 排 気 量	740cc
d) 最大出力	17.1kw/3600rpm
e) 使用燃料	普通ガソリン
f) オイル	SAE10W30
g) 燃料タンク	17L
10) 本体寸法及び重量	
a) 全 長	1242mm(格納時)
b) 全 幅	1067mm
c) 全 高	1342mm
d) 概算重量	470kg

《各部名称及び働き》

1) メーターパネル

a) チョークノブ

気温が低い時またはエンジンが冷えている時には、ノブを手前に引いてください。エンジンがスムーズに回転してきたら、ノブを向こう側へ止まるまで押し込んで下さい。

b) スロットルレバー

エンジン回転数の調整を行います。下へ押せばエンジン回転数は徐々に上がり、上に戻せばエンジン回転数は下がります。

c) スタータスイッチ

エンジンの始動、運転、停止を行います。

d) 水温計

エンジン内の冷却水の温度を示します。エンジンの管理の目安にしてください。

e) 回転計

エンジンの回転数をデジタルで示します。ブレード軸の回転数はエンジン回転数の 60%となります。

f) 作業灯

夜間作業時などに使用します。

g) ブロアスイッチ

切削切粉の集じん機の始動を行います。

2) 操作レバー

a) ブレーキレバー



警告

駐車時にはブレーキ(上)に、走行時には自走の位置(下)に確実に入れて下さい。その他の位置にあると急に前後進する場合があります、また機械の破損の原因ともなります。

b) 走行レバー



警告

自走の場合の前進、後進の切替と走行スピードの調整を行います。中立位置より前方にすると前進スピードが速くなり、後方にすると後進スピードが速くなります。なお、レバーを急に動かすと急発進の原因となり、危険ですのでレバー操作は徐々に行い低速で発進し、所定のスピードになるようにしてください。

c) 昇降スイッチ(切込深さ調整スイッチ)

ブレード軸の昇降を行います。スイッチを下側に動かすとゆっくり降下し、上側に動かすと上昇します。なお、ブレードの取り付けいた状態で急にブレード軸を下げるとブレードが切断面に当たり、チップとびの原因となりますので、昇降はゆっくり行ってください。

d) 変速レバー

レバー位置は上側が切削、中が中立、下側が回送です。

《ご使用になる前の点検》

機械をご使用になる前に必ず始業点検を行うようにしてください。



警告

- ・点検、整備を行う場合は必ず平坦な場所に機械を置き、エンジンを停止してから行ってください。
- ・燃料の補給、各部への注油はエンジンが冷えてから行き、くわえタバコなどは絶対にしないで下さい。また、給油後はキャップをしっかり閉め、こぼれた燃料などはきれいに拭き取ってください。

1) 機械各部分の緩みを点検して下さい。

ボルト、ナット、チェーン、ベルトなどの点検をし緩みがある場合は、増し締めなど必要な整備を行ってください。

2) ピローブロックのガタがないか点検して下さい。

ブレード取付軸のピローブロックにガタがあると、ブレードのたたき現象を引き起こしチップとびの原因となりますので、ガタがある場合は交換してからご使用下さい。

3) 潤滑油、作動油、エンジンオイル等の点検をして下さい。



注意

オイルレベルの確認、オイルの汚れなど適切な整備が行われているか確認してください。オイルの管理の良否によって機械の寿命や整備費、能率などに大きな差が出る場合があります。

a) エンジンオイル

注油口より給油し、オイルゲージをいっぱい押し込み、ゲージの上下のキザミの間までオイルを入れてください。もし、足りない場合は補給して下さい。

b) 減速機オイル

減速機上部の注油口から注油して下さい。側面のオイルゲージ中央まで入っていることを確認して下さい。もし、足りない場合は補給して下さい。

c) 油圧ミッション

油圧ミッション上部のタンクの油量を確認して下さい。もし、少ないときは補給して下さい。

d) 油圧ユニット

油圧ユニットのタンク部のレベルにより確認して下さい。

e) クラッチ及びチェーン、ピローブロック

クラッチ、チェーン、ピローブロックを点検し、適時グリースを給油して下さい。

f) バッテリー

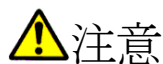
バッテリー液を点検し、電解液が規定液面より下の場合は、補充液を補給して下さい。

《運 転》



警告

- 1) 始動前に始業点検を毎日必ず行って、不具合なところがないことを確認して下さい。
- 2) クラッチレバーを「駐車」にし、走行レバーを「中立」にしてください。
- 3) スタータスイッチにキーを差込み、一段右に回すと運転になり、さらに回すとセルモーターが回りエンジンが始動します。気温が低い時、エンジンが冷えている場合は。チョークノブを手前に引き始動して下さい。なお、スロットルレバーは少し下げてください。



注意

- 4) エンジンが始動したら、キーより手を放しますとキーは自動的に運転に戻ります。
注) スタータスイッチは30秒以上連続して操作しないで下さい。バッテリーの消耗が大きいのと同時にセルモーターが焼損する恐れがあります。
注) 1回で始動しない場合は、10秒程度間をおいてから同じ操作を行ってください。
- 5) エンジンが始動したら、スロットルレバーを操作し、所定の回転数にあわせてください。
- 6) エンジンを停止する際は必ず規定アイドリング回転にスロットルを戻してから、スタータスイッチを停止位置に戻してください。

給油箇所	油量(L)	規格	交換目安時間(H)	
			初回	通常
エンジン	3.0	SF クラスエンジンオイル 10W-30	20	200
油圧ミッション	0.65	油圧作動油 ISO VG 46cSt	—	200
減速機	0.11	ギヤオイル ISO 150cSt	50	100
油圧ユニット	1.0	油圧作動油 ISO VG 46cSt	100	200
ピロブロック	適量	グリース No.2	適時	200
クラッチ及びチェーン	適量	グリース No.2	適時	200

《操 作》

1) 走行

a) 自走

- ①走行レバーを「中立」にして下さい。
- ②ブレーキレバーを「自走」にして下さい。
- ③走行レバーを上へ上げれば前進し、さらに上げてゆくと走行速度が速くなります。また、「中立」から下に下げれば後進します。さらに下げれば速度が早くなります。
- ④速度は無段変速ですから、任意の速度にすることが出来ます。
- ⑤走行レバーの急激な操作は、急発進の原因になりますのでレバーの操作はゆっくり行ってください。前進・後進の切換時にはトランスミッションの故障につながりますので、必ず一旦中立で止めてください。



- ⑥壁際などでの後進時は、機械と壁の間に挟まれることがありますので、大変危険です。出来るだけ低速で走行し、機械の脇から操作するようにして下さい。

b) 手動走行

- ①走行レバーを「中立」にして下さい。
- ②ブレーキレバーを「自走」にして、必ず変速レバーを中立に戻し手動ハンドルを右に回すと前進、左に回すと後進します。

c) 駐車

- ①ブレーキレバーを「駐車」にして下さい。なお、エンジンを運転している時は必ず走行レバーを「中立」にしておいてください。その他の位置の時に駐車にすると故障の原因となります。
- ②本機から離れる時は、エンジンを停止しブレーキレバーを『駐車』にして後車輪に車止めをするようにして下さい。



《切 断》

- 1) エンジンを必ず停止し、本体前方のブレード取り付け軸を上へ上げ、所定のダイヤモンドブレードを軸にしっかりと固定して下さい。締め付けは付属のスパナを使い、ハンマーなどでたたきながらしっかりと取り付けてください。なお、本機は通常のコンクリートカッターとは違いアッパーカットですので、ダイヤモンドブレードの取付方向には注意して下さい。ネジは右ネジです。
- 2) 作業時には、必ずブレードカバーを取付、ブレードがもし破損しても周囲に危険が及ばないようして下さい。また、ヘルメット、防塵メガネ、防塵マスク、安全靴を利用して下さい。
- 3) 本体前部のガイドを切断線に合わせてください。ブレード、ガイド、切断線が同一線上になるようにして下さい。
- 4) エンジンを《運転》の項にしたがって始動し、使用するダイヤモンドブレードの直径に応じた回転数にして下さい。
- 5) ブレーキレバーを操作し《操作》の項にしたがって切断作業を行ってください。
- 6) 集塵ブロアは、エンジンとベルトにより直結されていますので、エンジンを始動しますと集塵も始まります。また、ベルトが緩んでいると集塵力が落ちますのでベルトの緩みを確認して下さい。
- 7) 本機に搭載している集塵フィルターは濾過面積の広い円筒フィルターを採用していますが、約 20m～30m 切断すると目詰まりしますので、一時切断を中止しシェーキングハンドルを回しフィルター表面の粉塵を払い落としてください。また、集塵力が回復しない場合はフィルターを集塵ボックスから外して圧縮空気などで清掃して下さい。
- 8) 路面に水分が多い場合は、路面をバーナーなどで乾かしてから作業をおこなうか、切断状況に応じて早めにシェーキングを行うようにして下さい。



警告

日本フレキ産業株式会社

本社 〒202-0014

東京都西東京市富士町2丁目13番17号

TEL0424-61-5171(大代表) FAX0424-61-6310

東京支店 福岡支店 大阪営業所 名古屋営業所
札幌営業所 広島営業所 長野営業所 新潟営業所
仙台営業所 新座工場